

## **第4講：宗教的多元性**

近代から現代へ：宗教本質論・宗教哲学

宗教批判

宗教的多元性

### **1．現代世界の宗教的状況**

1. 1960年代以降のキリスト教思想の諸動向  
解放の神学、生命の神学、宗教の神学
2. 現代のキリスト教を規定する宗教的多元性  
過去との比較：古代、中世、近代
3. アジアのキリスト教の現実
4. 西欧の脱キリスト教化とキリスト教の脱西欧化
5. 宗教の神学をめぐる三つの立場(ヒックの類型論より)  
排他主義  
包括主義  
多元主義

### **2．エキュメニズム**

6. 20世紀になってからの教会一致運動の進展  
WCCと第二バチカン公会議
7. 近代・プロテスタント時代の終焉(ポスト・プロテスタント時代)：ティリッヒ
8. 何のための一致か？  
現代世界を生きるキリスト教の使命  
cf. ボンヘッファー

#### <文献>

1. 熊沢・野呂編 『総説 現代神学』(日本基督教団出版局)
2. 芦名定道 『ティリッヒと現代宗教論』(北樹出版)
3. 古屋安雄 『宗教の神学 その形成と課題』(ヨルダン社)
4. 南山大学宗教研究所編 『宗教と文化 諸宗教の対話』(人文書院)
5. ヒック 『宗教の哲学』(勁草書房)  
『神は多くの名をもつ』(岩波書店)  
『もうひとつのキリスト教』(日本基督教団出版局)  
『宗教多元主義』(法蔵館)  
『宗教がつくる虹』(岩波書店)  
『宗教多元主義への道』(玉川大学出版部)

### **3：宗教の神学と宗教対話**

1. 対話を要求する状況の変化

1. カトリック教会における第二バチカン公会議やプロテスタント諸教派における  
WCC(世界教会協議会) - エキュメニズムから宗教対話へ -
2. キリスト教を取り巻く大きな歴史的な変動、  
西欧の脱キリスト教化とキリスト教自体が確実に脱西欧化

## 2. 対話をめぐる諸立場

排他主義:「教会の外に救いなし」、人類救済の独占性の主張

包括主義:カール・ラーナーの「無名のキリスト者」、キリストの規範性

多元主義:すべての諸宗教に対してキリスト教に包括されない独自の真理契機を承認

<問題点> 宗教対話の必然性あるいは目的(何のための対話か)

宗教的共存で十分ではないか

WCC

総務局 / 第一部局:一致と革新 / 第二部局:宣教する諸教会 - 健康・教育・証し /  
第三部局:正義・平和・創造 / 第四部局:分かち合いと奉仕

## 3. 宗教対話と日本での取り組み

「死」の問題:死の儀礼としての葬儀の在り方、東アジア的な祖先崇拝や家の問題

日本カトリック司教協議会諸宗教委員会

『祖先と死者についてのカトリック信者の手引』(1985)

デヴィッド・リード「日本のキリスト教信者の祖先関係」(『神学』51, 1989年)

ヤン・スィングドー 「キリスト教と日本の宗教文化の出会い - 祖先崇拝に対する  
カトリックの態度を中心に - 」(『現代宗教学4 権威の構築と破壊』

東京大学出版会 1992年)

飯沢忠 「結婚と葬儀」(『総説 実践神学II』 日本基督教団出版局 1993年)

## 4. インドネシアのキリスト教の歴史と現状(『世界キリスト教百科事典』教文館 1986)

	1900	1970	1975	1980	2000
ムスリム	40.0	43.0	43.2	43.4	44.0
新宗教信徒(伝統的部族宗教がイスラム化あるいはヒンズー化したもの・混交宗教)					
	10.0	37.4	36.4	35.5	32.4
キリスト教	1.4	9.4	10.3	11.0	13.3
部族宗教信徒	45.6	5.5	5.1	4.7	3.1
ヒンズー教	2.0	1.9	2.0	2.1	2.2
仏教徒	0.5	0.9	1.0	1.0	1.1
人口	3800万	1.2億	1.3億	1.5億	2.3億

1. 統計上のムスリムと実質的なムスリムとの区別

2. 新宗教:ジャワ教(アニミズム、ヒンズー、仏教、イスラムの混交)

ジャワ・スダ教、神秘主義の小セクト

3. カトリック:ジャワ島中部・東部、東チモール、スマトラ島北部、ランブン、  
スラウェシ、カリマンタンの奥地、イリアン・ジャヤ奥地

プロテスタント:インドネシア教会協議会(DGI)加盟教会の信徒800万人  
1980:1710万人中、プロテスタント910万人  
イリアン・ジャヤ(65%)、マルク(57%)、スラウェシ(18%)、  
スマトラ島北部(15%)、ヌサ・テンガラとバリ(10%)、  
カリマンタン(6%)、ジャワ(2%)

## 5. インドネシアの宗教史 アジア的な宗教文化の三層構造

- (1)民族移動(紀元前3000年から1500年にかけて、モンゴロイド系マレー人種がベトナムあたりから移動)からヒンズー王国形成期までの3000年間(先史時代): アジア的なアニミズム(基層文化)
- (2)ヒンズー・仏教時代:ヒンズー教は6~7世紀、仏教は8世紀に到来
- (3)イスラムの伝来と布教:8世紀後半に北スマトラに到来
- (4)16世紀に香料争奪戦とオランダ東インド会社の勝利
- (5)キリスト教の伝来と布教:カトリック教会が7世紀にはスマトラ島に存在  
本格的な伝道は16世紀以降  
ポルトガル・カトリック オランダ・東インド会社・オランダ改革派  
19世紀:敬虔主義の宣教師

## 6. 近代化のコンテクスト

1. スカルノの建国五原則(パンチュラ)  
唯一神への信仰、人道主義、民族主義(インドネシアの統一)、民主主義(合議制と代議制による)、社会正義  
1945年憲法の第11章29条「国家は唯一神に対する信仰に基礎を置く」(第一項)
2. パンチュラ精神によってイスラム主義国家をめざす運動に有効に対抗し、民主化を促進するという政治戦略  
エキュメニズム:1984年のアンボンで開かれたインドネシア教会連合共同体(PGI)の第10回総会と1989年にスラバヤで開かれた第11回総会  
アンボン総会「インドネシア教会一致のための5文書」
3. 90年代以降のイスラム化の問題

## 7. インドネシア神学の試み

インドネシアのキリスト教の中心的テーマ:民衆の貧困と宗教的多元性  
新しい社会建設への参加と貢献(開発)  
開発主義がもたらす弊害(経済繁栄のためということでの人権の軽視、環境破壊  
スマルタナのエコ・フェミニズムの神学)  
エキュメニカルな方向 イスラムとの対話

<文献>

- 木村公一「インドネシア教会の宣教と神学」(『福音と世界』新教出版社1995.3-1997.12)  
「東ティモール問題とインドネシア教会」(同上 2000.1)  
伊東定典「インドネシア」(『アジア・キリスト教の歴史』日本基督教団出版局 1991)